

勉強

2024.7.24

今まで数え切れないほどの人が、義務教育というものを受けてきた。誰しもが、一度はある疑問を抱いてきたのではなからうか。それが、「何のために勉強するのか」である。まじめに勉強した人が、必ずしも報われているわけではない。努力が必ずしも成功に結び付くわけでもない。

そのような現実を目にすると、勉強することや努力することに対して、空しさを感じてしまうことがあるかもしれない。今、自分がコツコツと学び続けていることが、一体この先、何につながるのか分からず、先行きが不安になってしまうこともあることだろう。誰からも褒められず、評価もされず、学ぶことが無意味に思えることもあるかもしれない。

だが、自分の内側から沸いてくる思いに従って、学び続けることを止めなければ、天から梯子が下りてくるような瞬間がやってくる。多くの人が、同じようなことを言っている。ただし、身の丈に合わない努力を誰かに言われて嫌々続けていくようなやり方では、あまり意味がない。

高校や大学で学び、資格や免許を取得し、それを仕事に生かしている人は多いだろう。一方、大学まで学んだことが、今の仕事に直接は役立っていない場合もあるかもしれない。だからといって、今まで学んできたことが無駄かというとなんなことはない。力強く人生を歩んでいく土台になっているはずである。あるいは、これから見つかるかもしれない、自分にとっての専門分野に向かうための礎となっているかもしれない。

社会に出てからの方が、一生懸命勉強しているという人も多いのではなからうか。それは、必要に迫られてのことかもしれない。きっかけはそうであったとしても、学ぶことの意義をようやく大人になってから見出すことができたのかもしれない。

社会人になり、仕事をしながら、自分の目指す道を見つける人もいるだろう。そういった人は、きっと本気で勉強を続けるはずである。勉強をするのに、遅すぎるということはない。いつでも何歳になってもできるのは確かである。だが、何事にもタイミングというものがある。人の一生には、この時期だからこそ、やっておくべきことというものがある。勉強も、その一つである。

中学生、高校生と、もう少し勉強しておけばと思うことがないわけではない。特に、高校時代である。一番、勉強すべきときに、努力を怠ってしまった。努力できなかつた自分を受け入れ、自分の人生を歩んできた。世の中に出てからの方が、勉強しているように思う。それが、きっと、本物の勉強なのであろう。やらされているのではなく、自分の内側から沸いてくる思いによって動いている。だから、身に付く。

この夏休みも、多くの中学3年生や高校3年生が、受験生という状況に追い込まれながらも、努力を続けることだろう。昔、努力できなかつた者として、心から応援したい。